

ハイライト

ムーディーズ・インベスターズ・サービスは、インド政府の現地・対外通貨発行体格付けを Baa2 から Baa3、安定的からポジティブへと引き上げました。ムーディーズは、債務拡大を会計年度末の2018年3月(2017年度)に6.7%程度に安定させるために実施したナレンドラ・モディ首相政権下の全面的な改革に、経済成長を大きく期待した形となります。エージェントは更に、商品サービス税と一部ルピー廃貨にかかる混乱が収まることで、2018年度には実質的なGDPは7.5%に上るものと予想しています。

(引用：ムーディーズ・インベスターズ・サービス)

保有量波線グラフ

ムーディーズ格上げが、銀行株式保有量の見通しを向上させました。



ムーディーズ・インベスターズ・サービスが国別ソブリン債の格付けを2004年以来初めて格上げした後に、インド株式ベンチマークは向上、銀行株を押し上げました。

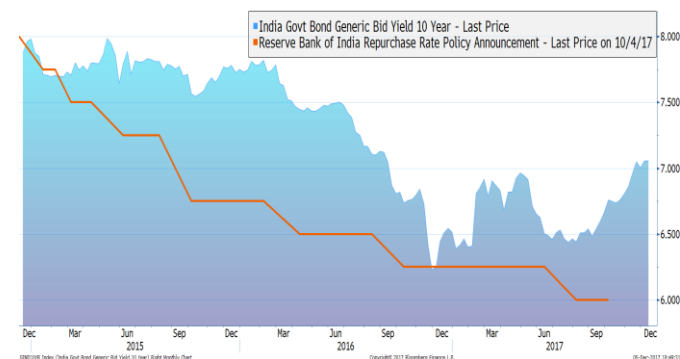
インド株式に関する見通しは、投資家や戦略家の間で依然として堅実であり、株式については、入手可能な割安株を踏まえて初期段階にあるとされており、更に企業収益の回復は、国内投資家に強くサポートされた市場への堅調な外資流入を促していると考えられています。(引用：ブルームバーグ)

食品部門は、直接投資に対して100%開放されている「メイド・イン・インド」プロジェクトにより、モディ政権における優先項目となりました。3日間にわたって開催された「World Food India 2017」において、100億米ドルにも上ると予想される契約が交わされました。インドにおける更なる職と食料需要の向上を図るそのカンファレンスには、30か国の2000にも上る代表団が参加しました。

(引用：World Food India 2017)

魅力的に。

インドの10年債権利回りは過去3か月で跳ね上がりました。



インド政府の10年債券利回りは、中央銀行の保証料に関するポリシーにより、レートが約1%ほど上がったこともあり、投資家にとってますます魅力的なものとなりました。10年債権利回りは原油価格上昇に伴い、インフレ圧力を加えました。利回り曲線は類を見ない程急激に変化し、インド準備銀行はモディ政権の年度政策に刺激を受けた、更なる明確な経済データに基づいた中立的な金融施策を期待されています。

(引用：ブルームバーグ、JPモルガン・チェース)

GDPは経済回復を見せ、前年同期比6.3%の成長を見せました。データは廃貨の衝撃と商品サービス税導入に伴う過去5期続いた停滞から回復してきていることを示しています。製造業部門はこの回復を牽引し、第1期は1.2%、第2期は7.2%まで成長しました。サービス業部門は第2期に7.1%まで成長し、実質的な個人消費量は堅実に6.5%の伸びを記録しました。これは日経PMIにも反映されており、11月には13か月振りに52.6ポイントを記録しました。

(引用：日経アジアレビュー)

金輸入量は10月、前年比31%減少しました。商品サービス税実現に先立った購入の急増による保有量積み増しと国内需要の減少が相まって、金輸入量が減少しました。国内需要はまた、マネーロンダリング規制法の導入に影響を受けています。

(引用：ブルームバーグ)

重要情報

この報告書は株式やユニットのオファーの性質を持つものではなく、意見や広告の提案や提示でもありません。これは何らかの証券の利率や価格の起こり得る将来の動きに関する何らかの予測や表示の性質を持つものではありません。上記の報告書の内容は、特定の目的、経済状態、そしてこの報告書を受け取る特定の人の特定のニーズを顧みず、情報提供のみを目的としています。何らかの証券や有価証券への投資と本文書に言及されている投資戦略の妥当性に関しては、アドバイスを求めてください。

当社がお客様の投資問題を解決するうえで役に立てる方法について詳しくお知りになりたい場合にはUTI投資担当者にお問い合わせ頂くか www.utifunds.com をご覧ください。